

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム

令和4年度 事業報告書

令和5年9月21日

■目次

| | |
|---|----|
| 1. 金沢市 近郊私立大学等の特色化推進プラットフォームの全体概要 | 1 |
| 2. 令和4年度の事業計画と目標値および実績 | 2 |
| 3. 令和4年度 事業実績 | |
| (1) 全体 | 4 |
| (2) ワーキンググループ別事業報告 | |
| ①共同 PBL 運営検討 WG | 5 |
| ②単位互換検討 WG | 6 |
| ③専門連携・産学連携研究促進 WG | 7 |
| ④入学者促進 WG | 8 |
| ⑤小中校・一般・企業向け学習支援 WG | 9 |
| ⑥地元就職促進 WG | 10 |
| ⑦リスクマネジメント検討 WG | 11 |
| ⑧共同 FD/SD 事業 WG | 12 |
| ⑨共同 IR 事業 WG | 13 |
| 4. IR データ（抜粋） | 14 |
| 5. 自己評価と達成目標・実績 | 15 |
| ■参加大学等 | 18 |
| ■協力自治体 | 18 |
| ■協力産業界 | 18 |

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム

(2021.10.11現在)

(私大等) 金沢医科大学・金沢学院大学・金沢工業大学・金沢工大・かほく食マネジメント専門職大学・金沢星稷大学・金城大学・北陸学院大学・北陸大学・金沢学院短期大学・金沢星稷大学女子短期大学部・金城大学短期大学部・北陸学院大学短期大学部・国際高等専門学校
 (自治体) 金沢市・白山市・野々市市・内灘町 (産業界) 金沢商工会議所・白山商工会議所・野々市市商工会・一般財団法人北陸産業活性化センター

PFの特徴

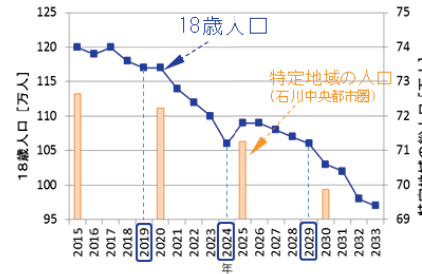


- 石川県内には19自治体のうち、金沢市・白山市・野々市市・内灘町に全13私立大学等が集結
- 3市1町で県内総学生の約半数
- 人文・社会・医・薬・理・工・保険・家政・芸術・総合・新領域全分野をカバー（大規模総合大学と同等）

⇒学圏都市「学都金沢」を形成

現状・課題

- 大学等の課題**
 - 18歳人口減少に伴う入学者数の確保
 - 多分野集結の学圏都市「学都金沢」の優位性の活用
 - 大学コンソーシアム石川内の私大としての多様性・独自性の発揮
- 地域の課題**
 - 石川中央都市圏（金沢市・白山市・野々市市・内灘町・かほく市・津幡町）の活性化
 - 自然・教育・伝統文化・街並み・福祉充実・少子高齢化・人口流出・社会インフラの老朽化・交通ネットワーク・伝統文化産業の後継者の育成



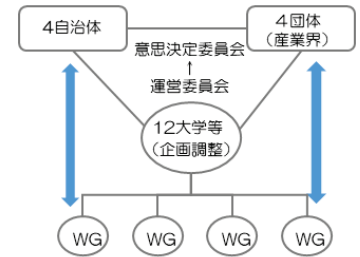
将来ビジョン・目標

- 「学都金沢」ブランドの確立
- 定員充足率 100%
- 入学者定員充足率 1.00
- 受託・共同・助成研究契約数 120%
- 公開講座受講生 5倍
- リスクマネジメント対応項目 40件
- ブランドランキング 1位等

- 質の高い特色ある教育の実施
- 地域・産業の活性化
- 住みやすさ日本一の圏域

- ＜主な取り組み事項＞
- 教育の質向上に向けた各大学の資源の共有化ならびに集中にすること
 - 異なる専門分野の連携による新たな価値創造に取り組むこと
 - 類似する専門分野の連携による強みの相乗効果による質向上を図ること
 - 石川県内への進学への促進にすること
 - 初等中等教育機関との連携および協力にすること

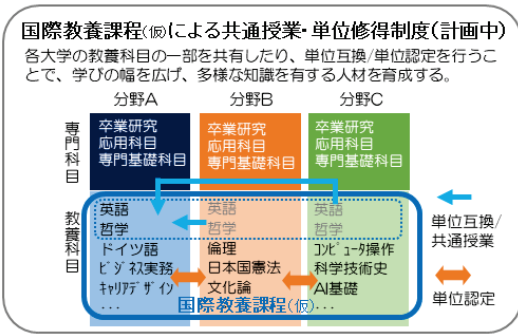
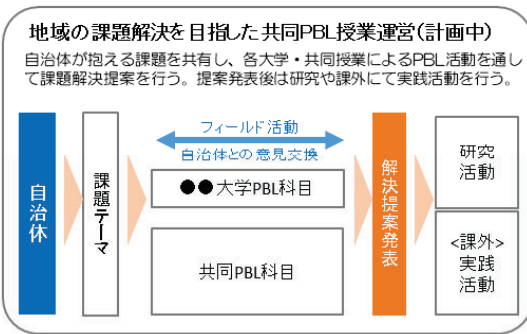
協議体制



ワーキンググループ

| 検討・運営WG | 担当校 (★は取りまとめ校) |
|-------------------|--------------------------|
| 共有PBL運営検討WG | ★金城大・金城短大・金沢工大・国際高専 |
| 単位互換検討WG | ★金沢工大・金城大・金城短大・国際高専 |
| 専門連携・産学連携研究促進WG | ★星稷大・星稷女子短大・金沢学院大・金沢学院短大 |
| 地元就職促進WG | ★金沢学院大・金沢学院短大・星稷大・星稷女子短大 |
| 入学促進WG | ★北陸学院大・北陸学院短大・北陸大・金沢医科大学 |
| 小中高・一般・企業向け学習支援WG | ★北陸大・北陸学院大・北陸学院短大・金沢医科大学 |
| リスクマネジメント検討WG | ★金沢医科大学・金沢工大 |
| 共同FD/SD事業 | ★幹事校(金沢工大) + 全大学等 |
| 共同IR | ★幹事校(金沢工大) + 全大学等 |

主な取り組み事業例



2. 令和4（2022）年度の事業計画と目標値および実績

| 全国 18 歳人口* | 112 万人 | | | | |
|--|---|--|--|--------------------------------------|---------------------|
| 石川県 18 歳人口* | 10,225 人 | | | | |
| 取組内容 | 2022 年度 活動計画 | 活動指標 | 2022 年度 目標値 ※比は 2018 年度比 | 2022 年度 実績 | 担当WG |
| ①教育の質向上に向けた各大学の資源の共有化ならびに集中に集中すること | <ul style="list-style-type: none"> 共同 PBL「プロジェクトデザイン基礎」等の単位化 自治体・産業界の課題をテーマとした共同 PBL の運用 単位互換科目の派遣・受入の実施 単位互換制度の拡大、開講科目の検討 | 1 協定校(大学・短大・高専・大学院) 定員平均充足率 [在籍者数/収容定員数] | 1.00 (2023.5.1) | 0.94 | 共同 PBL 検討 WG |
| | | 2 協定校(大学・短大・高専・大学院) 年間除籍・退学者数の合計 | 507 人 (90%) (2023.3.31) | 440 人 | 単位互換 検討 WG |
| ②類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関すること | <ul style="list-style-type: none"> 産業界、自治体との意見交換 「住みやすさ」に関する産学官連携による社会実装型研究活動の推進 | 3 地元企業と協定校による 受託・共同・助成の年間合計契約数 | 88 件 (115%) (2023.3.31) | 94 件 | 専門連携・産学連携 検討 WG |
| ③「学都金沢」ブランドを発信し、石川県内への進学促進に関すること | <ul style="list-style-type: none"> 令和 3(2021)年度 大学コンソーシアム石川での共同学生募集 私大等 PF 県外出身者学生アンケート 私大等 PF シンポジウム番外編の開催 各種データ分析 | 4 協定校(大学・短大・高専・大学院) 年間受験者数(のべ)の合計 | 27,395 人 (110%) (2023.5.1) | 21,914 人 | 入学者 促進 WG |
| | | 5 協定校(大学・短大・高専) 県内・県外年間入学者数の割合 | 県内: 県外 = 42:58 (2023.5.1) | 51:49 | |
| | | 6 協定校(大学・短大・高専) 入学募集定員平均充足率 [入学者数/募集定員] | 1.00 (2023.5.1) | 0.91 | |
| ④企業・地域住民の主体的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に関すること | <ul style="list-style-type: none"> 大学間連携事業の企画運営 複数の協力校(大学・短大・高専)による小中高校生向けの公開講座の企画、開講 複数の協力校(大学・短大・高専)による社会人向けの公開講座、及びリカレントプログラムの企画、開講 | 7 複数の協力校 (大学・短大・高専)による 小中高校生向けの公開講座等の年間開講件数 ※共通設問 11 に準ずる | 3 件 (2023.3.31) | 0 件 | 小中校・一般・企業向け学習 支援 WG |
| | | 8 複数の協力校 (大学・短大・高専)による 社会人科目等履修生登録および公開講座受講年間のべ人数 | 科目等履修生 50 人 公開講座受講者 3,800 人 (118%) (2023.3.31) | 科目等履修生 78 人 公開講座受講者 3,286 人 | |
| ⑤地元企業の人材確保に関すること | <ul style="list-style-type: none"> 地元就職に関する協定機関へのアンケート調査の実施 産業界のニーズ調査 学生に対する就職アンケート調査 各種データ分析 | 9 協定校(大学・短大・高専)の卒業生に対する 地元就職者の割合 [石川県内就職者数/卒業者数] | 45%以上 (2023.3.31) | 42% | 地元就職 促進 WG |
| ⑥リスクマネジメントに関すること | 「石川中央都市圏ビジョン(改訂版)」に掲載されている災害対策と本 PF 連携校との具体的な連携を図るため、個別状況対応マニュアルの充実や共同防災訓練等の官学連携を企画/運営 | 10 リスクマネジメントにおけるリスク対応項目数(累積) | 30 個 (2023.3.31) | 25 個 | リスクマネジメント 検討 WG |
| ⑦共同 FD/SD に関すること | <ul style="list-style-type: none"> 各大学からのニーズに合わせた FD/SD 研修を企画 研修後のアンケートの統一 | 11 共同 FD/SD 年間開催回数 | 4 回 (2023.3.31) | 3 回 | 共同 FD/SD 事業 WG |
| ⑧共同 IR に関すること | <ul style="list-style-type: none"> 各大学の基本データの調査 教学データの項目検討・調査 授業の満足度調査 その他 | 12 共同 IR によるファクトブックの年間報告回数 | 1 回 (2023.3.31) | 1 回 | 共同 IR 事業 WG |

*18歳人口の推移

全国:文部科学省より

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/02/16/1401001_4.pdf

石川県:リクルート進研総研より

<http://souken.shingakunet.com/research/2017/01/182016-2f2f.html>

(ワーキンググループ担当一覧)

| 検討・運営WG | 担当校 (★は取りまとめ校) |
|-------------------|---------------------|
| 共同PBL運営検討WG | ★金城大・短大、金沢工大、国際高専 |
| 単位互換検討WG | ★金沢工大、金城大・短大、国際高専 |
| 専門連携・産学連携研究促進WG | ★星稜大・短大、金沢学院大・短大 |
| 入学者促進WG | ★北陸学院大・短大、北陸大、金沢医科大 |
| 小中高・一般・企業向け学習支援WG | ★北陸大、北陸学院大・短大、金沢医科大 |
| 地元就職促進WG | ★金沢学院大・短大、星稜大・短大 |
| リスクマネジメント検討WG | ★金沢医科大、金沢工大 |
| 共同FD／SD 事業WG | ★幹事校（金沢工大）、全大学等 |
| 共同IR事業WG | ★幹事校（金沢工大）、全大学等 |

3. 令和4年度 事業実績
(1) 全体

| 取組内容 | 全体 | ワーキンググループ | | | | | | | | |
|----------------|---|---|--|----------------------------------|---|-------------------|--------------------------------------|----------------|---|---|
| | | ①教育の質向上に向けた各大学等の資源の共有化ならびに集中に関すること | ②類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関すること | ③「学都金沢」ブランドを発信し、石川県内への進学促進に関すること | ④企業・地域住民の主体的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に | ⑤地元企業の人材確保に関すること | ⑥リスクマネジメントに関すること | ⑦共同FD/SDに関すること | ⑧共同IRに関すること | |
| WG | — | 共同PBL運営検討WG | 単位互換検討WG | 専門連携・産学連携研究促進WG | 入学者促進WG | 小中校・一般・企業向け学習支援WG | 地元就職促進WG | リスクマネジメント検討WG | 共同FD/SD事業WG | 共同IR事業WG |
| 取りまとめ校 | 幹事校（金沢工業大学） | ★金城大・短大 | ★金沢工大 | ★星稜大・短大 | ★北陸学院大・短大 | ★北陸大 | ★金沢学院大・短大 | ★金沢医科大 | ★幹事校（金沢工大） | ★幹事校（金沢工大） |
| 担当 | 意思決定委員会・運営委員会 ・企画調整委員会 | 金沢工大、国際高専 | 金城大・短大、国際高専 | 金沢学院大・短大 | 北陸大、金沢医科大 | 北陸学院大・短大、金沢医科大 | 星稜大・短大 | 金沢工大 | 全大学等 | 全大学等 |
| 4月 | | | ・大学コンソ（前期）単位互換 | | ・大学コンソ（パンフレット・ガイドブック）発行 | | | | | |
| 5月 | ・DX推進メンバー意見交換会 ・R4_第1回企画調整委員会 | | | | | | ・地元就職に関するアンケート調査 | | | ・大学基本データの調査（年間スケジュール、1日の授業時間割の調査、オープンキャンパス日程調査） ・免許、資格等の調査 |
| 6月 | | | | | ・入学者データ分析調査 | | | | | |
| 7月 | | | | | ・大学コンソ（GAKU FES）オンライン進学説明会 | | | | ・第1回FD/SD研修「データサイエンス・AI 教育シンポジウム」（@北陸大・ハイフレックス） | |
| 8月 | ・オンラインシンポジウム | | ・私大等PF単位互換授業の実施 | | ・第1部「高校生の心のエンジンを駆動させる探究とPBLコンペティション」 ・第2部「生徒の学びを考えるPBL・探究学習教育セミナー」（中止） ・オンライン大学紹介 | | | | ・第2回FD/SD研修「私大等PF シンポジウム」（@金沢工大・オンライン） | |
| 9月 | ・R4_第2回企画調整委員会 ・R4_第1回運営委員会 ・R4_第1回意思決定委員会（今後の私大等PFを通じた高等教育のグランドデザイン意見交換） | ・オンラインPBLコンペ高校生版（延期） | | | | ・リレー公開講座企画（次年度開催） | | | | ・大学基本データの調査報告 ・免許、資格等の調査報告 ・大学×自治体・産業界との連携実績（令和元年～令和3年） ・大学基本情報データに基づく、自治体・産業界との意見交換 |
| 10月 | | | ・大学コンソ（後期）単位互換 | | | | | | | |
| 11月 | | | | | | | | | | |
| 12月 | | | | | | | | | | |
| 1月 | ・R4_第3回企画調整委員会 | | | | | | | | | |
| 2月 | ・R4_第4回企画調整委員会 ・R4_第2回運営委員会 | | ・次年度集中講義・オンライン講義の受け入れに向けた調整（金城短大関係者と打ち合わせ） | | | | ・金沢市近郊の私立大学の卒業生に対する、地元企業の採用意向アンケート調査 | | | ・大学コンソーシアム石川シティカレッジ単位互換業務に関する調査 |
| 3月 | ・R4_第2回意思決定委員会 | ・オンラインPBL大学生向け合同プログラム ・オンラインPBLコンペ高校生版 | | | ・データ分析報告 | ・企業向けリカレント講座①②③ | | | ・第3回FD/SD研修「IRシンポジウム2022」（@北陸大・ハイフレックス） | |
| 活動評価 (自己点検) | | B | B | C | B | B | B | C | B | B |
| 4月 | ・第1回教育DX-WG | | ・大学コンソ（前期）単位互換 | | | | | | | |
| 5月 | | | | | ・大学コンソ（パンフレット・ガイドブック）発行 | | | | | ・大学基本データの調査（年間スケジュール、1日の授業時間割の調査、オープンキャンパス日程調査） ・免許、資格等の調査 ・学術分野の調査 |

【S】当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 【A】当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 【B】当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。 【C】当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。 【D】当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。

①共同 PBL 運営検討WG 事業報告

金城大学・金城大学短期大学部
金沢工業大学・国際高等専門学校

1. 令和4年度の活動目標

- (1)定員充足率 1.00 (2023/5/1)
- (2)年間除籍・退学率 90% 507人 (2023/3/31)
- (3)共同 PBL の単位化の検討

2. 令和4年度の活動計画

- (1)共同 PBL「ラーニングデザイン基礎」等の単位化
- (2)自治体・産業界の課題をテーマとした共同 PBL の運用

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

(1) 共同 PBL「ラーニングデザイン基礎」等の単位化について

共同 PBL「ラーニングデザイン基礎」は実施できなかったが、高校生向け共同 PBL にてファシリテータ養成講座として「ラーニングデザイン実践」を実施し、大学生7名が受講した。

具体的な授業による単位化は進んでいないが、それぞれの大学等の特色を活かし、多様で質の高い学びができる私大間の意見交換の場の構築ができており、単位化に結びつく取り組みを継続的に実施した。

(2)自治体・産業界の課題をテーマとした共同 PBL の運用

① 2023年3月に高校生向け共同 PBL「高校生が考える学都圏“いしかわ”創成」を実施した。高校生に各大学の専門に関することや、新しい PBL の形を理解してもらうことができ、有意義なものとなった。なお、本事業は当初、2022年9月に完全オンライン PBL コンペティション「高校生が考える学都圏“いしかわ”創成」として企画したものの、参加者を得られず止む無く開催を見送った。その後、日程の工夫や参加者を石川県内の高校生から全国に広げるなどの改善を図り、当初の企画を踏まえつつも、実現可能性に重きをおく内容に変更し実施した。

石川県全体を高校生の若い意見を取り入れたアイデアによって、創成する取り組みを継続的に実施した。

② 2023年3月に「共同 PBL 企画」によるデザイン思考ワークショップを2日間の日程で実施し、加盟校5校の学生が参加した。「Collaborative Design Thinking Workshop:大学での学びのスタイルをピボットする」をテーマに、参加学生が「Design Thinking」を通して、他大学の学生とチームを組んで自大学また他大学を知ること、異なる専門分野への興味・関心を持ち、異なる視点から物事を捉える必要性を学習した。また、他者との意見や視点の違いから自分自身を理解し、他者にそれを効果的に伝える方法を探索していくことを目的に実施したものである。他大学のメンバーとのやり取りは、自由に話しかけられるバーチャル空間「oVice」を中心にオンライン上で行われ、学生たちは様々な課題に取り組んだ。オンライン上ではあるが、普段関わることの少ない他大学の学生と交流する貴重な機会となった。

①と②共に各自自治体が課題としている「生産年齢人口の流出」対策として、①では将来学び続けられる理想の都市圏「学都圏“いしかわ”創成」をテーマに、高校生が共同 PBL を実施した。②では高等教育機関の魅力充実を図ることを目的に、「大学での学びのスタイルをピボットする」をテーマに大学生が共同 PBL を実施した。

4. 事業評価（自己評価）

評価：B（当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。）

理由：専門領域を異にする他大学の学生と同一のテーマで共同 PBL 授業を実施したことで、相互に刺激し合い大変有意義な学びの機会を創出できたことは十分評価できるが、共同 PBL の単位化の具体的な検討までには至らなかったため、次年度は具現化できるよう議論を深めたい。

以上

②単位互換検討WG 事業報告

金沢工業大学・金城大学
金城大学短期大学部・国際高等専門学校

1. 令和4年度の活動目標

- (1) 定員充足率 1.00 (2023/5/1)
- (2) 年間除籍・退学率 90% 507人 (2023/3/31)
→上記2事項を達成するために
 - ・単位互換に関するメディア発信 2件以上
 - ・共同運営・単位認定・単位科目 合計4科目以上

2. 令和4年度の活動計画

- (1) 単位互換科目の派遣・受入の実施
- (2) 単位互換制度の拡大、開講科目の検討

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

昨年度に引き続き、大学コンソーシアム石川の単位互換事業に加え、令和4年度も金沢工業大学と金城大学短期大学部の両校において、他大学等の科目を自大学等の科目として認定する「単位認定協定」に基づき、「AI基礎」(金沢工業大学提供科目)と「保育教材演習」(金城大学短期大学部提供科目)を開講した。昨年度検討していた、ウィズコロナ時代に対応したオンラインやハイフレックス授業の運用については、「AI基礎」の授業にてSmoothSpaceを活用したオンライン授業を実施した。また、今後の単位互換制度の拡充および開講科目の検討についても、引き続き検討を重ねていく。

また、単位互換までは実施できていないが、令和5年2月8日に金沢工業大学と北陸学院大学の両校において、「教職合同ゼミ」を実施した。「不登校」をテーマに、SmoothSpaceを活用したオンラインにて、両校の教職を目指す学生同士の活発な意見交換が実施された。実施後の学生へのアンケートでは「いろいろな視点から考えることができ良かった。」「多くの専門的な知識や社会問題について学び、より深い議論をすることができた。」と好意的な意見が聞かれた。

定員充足率 1.00 (2023/5/1) → 0.94
年間除籍・退学率 90% 507人 (2023/3/31) → 78% 440人
単位互換に関するメディア発信 2件以上 → 0件
共同運営・単位認定・単位科目 合計4科目以上 → 2科目

4. 事業評価(自己評価)

評価：B (当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。)

理由： 単位互換認定協定を継続して実施し、他大学等の科目を自大学等の科目として認定した。一部の授業において、ウィズコロナ時代に対応した、大学間の距離や移動のための時間の弊害を解決するために、SmoothSpace等を活用したオンライン授業を実施した。また、引き続き履修手続き等の事務手続きや受講学生への情報提供をスムーズに実施するため、担当校間での調整が不可欠である。

今後は各大学等の強みを活かした複数校による小規模な単位互換事業の拡大により、各私大間の連携の深化に繋げて行きたい。

以上

③専門連携・産学連携研究促進WG 事業報告

金沢星稜大学・金沢星稜大学女子短期大学部
金沢学院大学・金沢学院短期大学

1. 令和4年度の活動目標

- (1) 受託・共同・助成の年間合計契約数
115% 88件 (2023/3/31)

2. 令和4年度の活動計画

- (1) 産業界、自治体との意見交換
(2) 「住みやすさ」に関する産学官連携による社会実装型研究活動の推進

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

当初の計画が学内の意見調整にとどまり、産業界、自治体との連携が不十分だったため、具体的な事業や計画が進まなかった。

4. 事業評価（自己評価）

評価：C（当初の計画はあったものの、その目標に対し実行に移すことができず十分な成果が得られなかった。）

理由：具体的な計画や活動の設定並びに目標及び課題に対する適切な分析が十分に行われなかった。併せて、取りまとめ校の学内の意見調整や合意形成に時間がかかるなど、組織、部署間の協力が不足した。

次年度は、事業計画の進捗管理や産業界、自治体との連携強化、当該WGの内部組織の協力体制の改善を図る。

以上

④入学者促進WG 事業報告

北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部
金沢医科大学・北陸大学

1. 令和4年度の活動目標

- (1) 年間受験者数(のべ)の合計 110% 27,395人 (2023/5/1)
- (2) 県内・県外年間入学者数の割合 県内：県外=42：58 (2023/5/1)
- (3) 入学定員平均充足率 1.00 (2023/5/1)

2. 令和4年度の活動計画

- (1) 令和4(2022)年度 大学コンソーシアム石川での共同学生募集(追認事業(自主事業): 広報事業・石川県高大連携セミナー事業・出張オープンキャンパス事業・学都石川情報発信事業・文化系芸術祭)
- (2) 私大等PF県外出身者学生アンケート
- (3) 私大等PFシンポジウム 番外編の開催
- (4) 各種データ分析

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

- (1) 令和4(2022)年度 大学コンソーシアム石川での共同学生募集
→ 広報誌の発行、ホームページの充実、石川県高大連携セミナー事業(令和4年10月14日(金)開催、出張オープンキャンパス事業、文化系芸術祭(令和4年12月16日(金)~18日(日))を実施した。
- (2) 私大等PF県外出身者学生アンケート検討
→ 実施には至っていない。
- (3) 私大等PFシンポジウム2022「デジタルを活用した大学の人材育成の取り組み&石川県内の私立大学紹介」開催
→ 8/24(水)に、オンラインで大学・短大紹介(広報活動)を行った。
- (4) 各種データ分析
→ 各大学等の入学者に関するデータ集計を行い情報共有した。2019年度からの4年間分のデータが蓄積され、引き続き分析を行い、傾向を把握していきたい。
- (5) 共同PBL運営検討WGとの共同企画
→ 「生徒の学びを考えるPBL・探究学習教育セミナー」を企画したが、新型コロナウイルス感染者増大で参加申込が少なく中止となった。

4. 事業評価(自己評価)

評価：B (当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。)

理由： 実施に至らなかった計画があった。初めて別のWGとの企画を検討したが、中止となった。しかしながら、WG間連携の重要性を感じた。最大の課題は集客である。

以上

⑤小中高・一般・企業向け学習支援WG 事業報告

北陸大学・金沢医科大学
北陸学院大学・短期大学部

1. 令和4年度の活動目標

複数の協力校（大学・短大・高専）による学修支援

- (1)小中高校生向けの公開講座等の年間開講件数 3件
- (2)社会人科目等履修生登録 50人
- (3)公開講座受講 3,800人

2. 令和4年度の活動計画

- (1)大学間連携事業の企画運営
- (2)複数の協力校（大学・短大・高専）による小中高校生向けの公開講座の企画・開講
- (3)複数の協力校（大学・短大・高専）による社会人向けの公開講座、及びリカレントプログラムの企画・開講

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

複数大学等による社会人向けリカレントプログラムとして、「AI時代に求められる組織マネジメント－健康経営とウェルビーイングの実現にむけて－」をメインテーマに、オンラインで以下のとおり実施した。

| 開講日 | 講座名 | 講師 | 申込者数 | 受講者数 |
|---------|----------------------------------|-------------------------------|------|------|
| 3/20(月) | ウェルビーイングの向上を目指して －「ココロ」の視点から－ | 伏島 あゆみ(金沢工大) | 108 | 86 |
| 3/20(月) | 健康経営で健やかな組織を作る －ウェルビーイングな働き方－ | 森田 聡(北陸大) | 104 | 86 |
| 3/22(水) | 軽運動による健康増進と脳の活性化 | 清田 直恵(金沢学院大) 橋高 朱里(金沢学院短大) | 97 | 77 |

令和4年度の各加盟校の科目等履修生登録者数78人、公開講座受講年間のべ数2,507人となった。ウィズコロナとなり、コロナ禍に比べて人数も増加傾向にあると推察される。なお、複数大学による一般・社会人向け共同公開講座については、令和4年度中に企画を行い、「金沢市近郊私立大学等の特色化推進プラットフォーム・リレー講座 ～石川中央都市圏“住みやすさ”日本一の圏域に向けて～」をテーマとして、社会人のほか、小中高生向けの複数の講座を令和5年度に実施する予定である。

4. 事業評価（自己評価）

評価： B（当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。）

理由： 社会人向けの共同のリカレントプログラムは実施することができた。次年度も私大等 PF 加盟校の特色を活かしたプログラムを検討していきたい。また、共同公開講座は実施できなかったが、令和4年度中に企画をまとめることができ、令和5年度に実施する予定である。小中高生向けのプログラムはこれまで実施できていないので、自治体等との協議を行い実施に繋げたい。

以上

⑥地元就職促進WG 事業報告

金沢学院大学・金沢学院短期大学
金沢星稜大学・金沢星稜大学女子短期大学部

1. 令和4年度の活動目標

- (1)現状の把握（コロナ禍における企業の採用活動の変化・学生の就職活動の変化等）
- (2)産業界との意見交換・連携体制の構築
- (3)協定校(大学・短大・高専等)の卒業生に対する地元就職調査
・令和4年度目標値 45.0%

2. 令和4年度の活動計画

- (1) 地元就職に関する協定機関へのアンケート調査の実施
- (2) 産業界のニーズ調査
- (3) 学生に対する就職アンケート調査
- (4) 各種データ分析

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

地元就職に関する協定機関へのアンケート調査および産業界のニーズ調査については、実施することができた。しかし、今後は回答率の向上を図っていききたい。学生に対する就職アンケート調査について、現段階ではニーズ調査を実施できていない。令和5年度の就職活動は新型コロナウイルス感染症以前の人の流れとなるといわれているが、不透明な状況もあり、調査方法等の検討についていましばらく時間を要する。各種データ分析については、現状で十分なアンケート調査が収集できておらず、満足な分析ができていない。令和5年度も未定であるが、できる限りアンケート調査を行いたい。

4. 事業評価（自己評価）

評価：B（当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。）

理由：限定的ではあるが、産業界のニーズ調査を実施できた成果は大きい。企業側が地元私大等の学生を採用する気持ちがあったとしても、毎年安定的に採用することが難しい場合もある事情をうかがい知ることができた。また、各教育機関の多くが学内企業説明会等を開催しているが、さらなるマッチング機会を求める企業もあり、今後の取組を改善するにあたっての貴重な意見を多く得られた。しかし、今回、回答が得られた企業の事業所の立地に偏りがみられるため、令和5年度は調査方法の見直しが必要であると考えている。

以上

⑦リスクマネジメント検討WG 事業報告

金沢医科大学・金沢工業大学

1. 令和4年度の活動目標

- (1) リスクマネジメントにおけるリスク対応項目数（累積） 30 個

2. 令和4年度の活動計画

- (1) 「石川中央都市圏ビジョン(改訂版)」に掲載されている災害対策と本PF連携校との具体的な連携を図るため、個別状況対応マニュアルの充実や共同防災訓練等の官学連携を企画/運営する。

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

- ・令和4年度事業実績並びに活動結果に関して、コロナ禍に加え7月に本学人事異動による担当者の交代も相まって、本来計画していた十分な取り組みが行えなかった。
- ・また、9月に開催された第1回運営委員会において、金沢工大及び近隣自治体に防災訓練の開催計画を確認したが、その時点でまだ計画はないとのことであったため、連携が困難となった。

4. 事業評価（自己評価）

評価：C （当初の計画はあったものの、その目標に対し実行に移すことができず十分な成果が得られなかった。）

理由：自治体との防災訓練を通じた連携等を図ることが叶わず達成することができなかった。
また、シェイクアウトいしかわへの参加状況調査についても実行できなかったため、次年度においては計画通り進めたい。

また、次年度に向けた新たな計画として、金沢医科大学病院が毎年秋に大規模被害を想定したトリアージ訓練を行っており、いつも模擬患者役として本学職員を募集しているところを、私大等PFの各大学等や自治体への募集呼びかけを行い、連携した取り組みを検討している。

以上

⑧共同FD/SD 事業WG 事業報告

金沢工業大学・全大学等

1. 令和4年度の活動目標

(1) FD/SD 研修の実施 4回

2. 令和4年度の活動計画

(1) 各大学からのニーズに合わせたFD/SD 研修を企画 (PF 校以外へのオープンな研修会)

テーマ: PBL、データサイエンス基礎、遠隔授業運営、その他

(2) 研修後のアンケートの統一

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

(1) FD/SD 研修の実施 3回

| 回 | 日付 | 区分 | テーマ | 場所 | 人数 |
|---|---------------|-------|--|---------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 令和4年 7月5日 | FD/SD | 北陸大学 データサイエンス・AI 教育 シンポジウム | 対面・Zoom (金沢市文 化ホール) | 284名 (対面65名、 オンライン219 名) |
| 2 | 令和4年 8月23日 | FD/SD | 私大等 PF シンポジウム「Society5.0 で活躍するのはこんな人! デジタルを 活用した大学の人材育成の取り組みオ ンラインシンポジウム」 | Zoom (金沢 工大) | 110名 |
| 3 | 令和5年 3月10日 | FD/SD | 北陸大学・嘉悦大学 IR シンポジウム 2022「日本型 IR は確立するのか」 | 対面・Zoom (北陸大) | 248名 (対面11名、 オンライン237 名) |

今年度はポストコロナ時代を見据え、オンラインやハイフレックスによるFD/SDを実施した。

データサイエンス・AI 教育シンポジウムでは、データ分析の第一線で活躍する講師からの講演や大学の取組の事例紹介が行われ、データサイエンス・AI 教育の現状と今後について理解を深めることができた。

「Society5.0 で活躍するのはこんな人! デジタルを活用した大学の人材育成の取り組みオンラインシンポジウム」では、大学・短大のデジタルを活用した人材育成の事例が紹介され、参加者からは「大学等におけるDXについての取組内容が良くわかった。」というコメントが多かった。

IR シンポジウムでは、大学におけるIRのデータ分析等の問題提起を行い、大学の取組事例が紹介された。

4. 事業評価 (自己評価)

評価: B (当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。)

理由: ポストコロナ時代を見据えた対応に伴い、オンラインやハイフレックスによるイベントの実施が当たり前となった。これによりどのような環境においても研修に参加しやすい環境になった。今年度のテーマはデータサイエンス・AI やデジタルを活用したDXに関する内容が多く、参加者の興味や関心も高かった。予定よりも実施回数が少なかったが、大学等の取組事例を紹介してほしいという声が多く聞かれており、次年度も継続して、現場の教職員の興味や関心の高いテーマで実施していきたい。

以上

⑨共同 I R 事業WG 事業報告

金沢工業大学・全大学等

1. 令和4年度の活動目標

- (1) データ集の作成と充実、年間報告 1回

2. 令和4年度の活動計画

- (1) 各大学の基本データの調査
- (2) 教学データの項目検討・調査
- (3) 授業の満足度調査
- (4) その他
[追加] 自治体・産業界との意見交換

3. 令和4年度 事業実績・活動結果

本年度は大学基本情報データ集(①)に加え、②～④に関する情報を取りまとめた。①をもとに、各大学等・自治体・産業界の代表者が意見交換を行い、特に私大等の卒業生が県内よりも県外に就職している割合が多いことから、「地元就職してもらうための施策を実施するために、各大学等・自治体・産業界で連携した取り組みを行いたい。」という意見が多く聞かれ、今後の連携課題を確認した。教学データに関して、④を実施し、今後の私大間の単位互換の推進につながる参考データとなった。

①令和4年度私大等 PF 大学基本情報データ集の取りまとめ (9月)

- ・大学基本データの調査・分析
- ・各大学等の年間スケジュール・1日の授業時間割
- ・各大学等のオープンキャンパス日程

②各大学等の教員免許・各種資格の調査 (9月)

③大学×自治体・産業界との連携実績(令和元年～令和3年)(9月)

④大学コンソーシアム石川シティカレッジ単位互換業務に関する調査 (2月)

4. 事業評価(自己評価)

評価：B (当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。)

理由：5月1日の大学基本情報の他に各大学等の授業時間割やオープンキャンパスの日程、教員免許・各種資格の調査を取りまとめ共有した。また、大学基本情報データに基づく、各大学等・自治体・産業界の代表者らによる意見交換を実施できた。

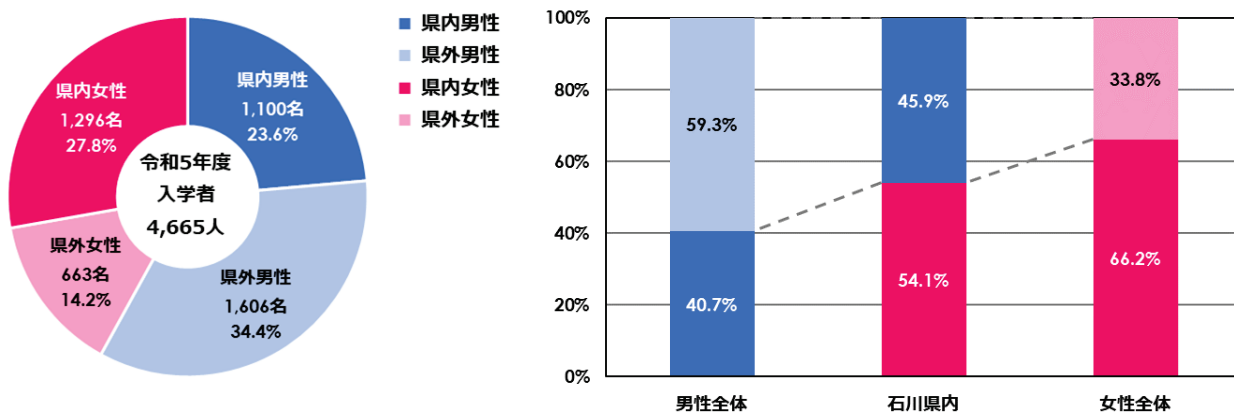
教学データに関しては、単位互換の推進につながる調査を実施できた。

授業の満足度調査に関しては、With コロナ時代に伴い、対面と遠隔を組み合わせたハイフレックス授業や全対面授業を実施する大学等もでてきており、授業の実施形態が複雑で把握が困難となったため行わなかった。

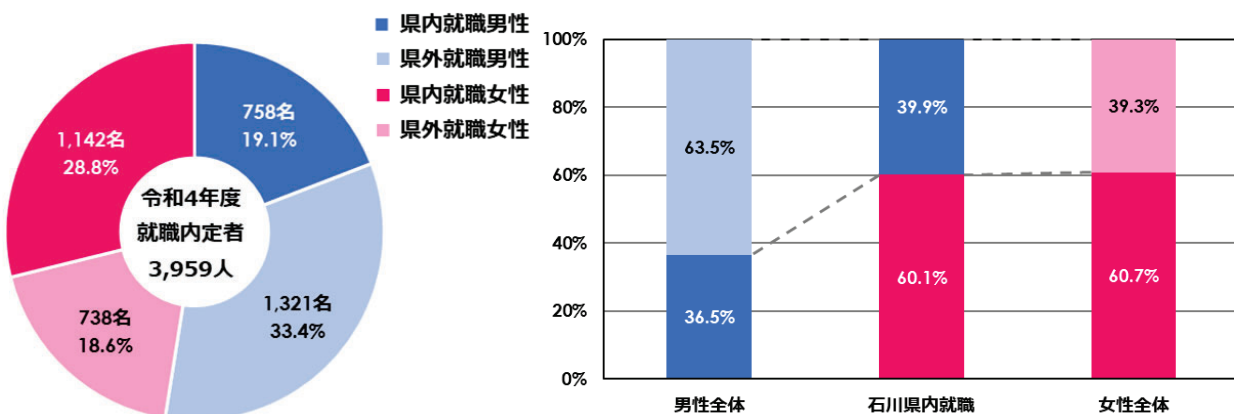
以上

4. IR データ（抜粋）

(1) 入学者状況（令和5年度入学者数：令和5年5月1日時点）



(2) 就職状況（令和4年度終了時：令和5年3月31日時点）



(3) その他

（私大等 PF 協力校の合計：令和4年4月1日～令和5年3月31日）

| 項目 | 2022年度実績 |
|----------------------------|--------------|
| 1 受託・共同・助成契約数（対象：石川中央都市圏内） | 94件 |
| 2 2023年度入試 受験者数（のべ） | 21,914人 |
| 3 科目等履修生登録者数（学部卒以上・その他） | 78人（62人・16人） |
| 4 公開講座受講者数（のべ） | 3,286人 |

5. 自己評価と達成目標・実績（令和 4. 4. 1～令和 5. 5. 1）

| ■中長期計画に対する自己評価 | |
|----------------------|--|
| 全体評価 B | <p>S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。</p> <p>A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。</p> <p>B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。</p> <p>C：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。</p> <p>D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。</p> |
| 評価理由 | <p>令和 4 年度は新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、各大学は感染防止を行いながら対面授業を基本とする体制へと切り替えた。しかしながら、大きなイベントを対面で行うにはまだリスクが高かったため、各種委員会や私大等 PF シンポジウム、共同 PBL、公開講座、FD/SD 等の活動はオンラインを中心として実施し、事業を推進した。</p> <p>全体として、当初の計画を超えるような実績や顕著な成果は見られなかったが、概ね実行できた。主な活動を次に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同 PBL-WG では、各大学の教員らが協力して実施した高校生対象の PBL 講座に県外からの参加があった。また、デザイン思考を取り入れた共同 PBL も複数の大学から学生が参加し、共同学習を行った。 単位互換 WG では、複数の大学間で単位互換事業を推進するほか、新たに教職合同ゼミを開催した。 入学者促進 WG では、大学間の連携による学生募集活動が行われ、学習支援 WG でも複数大学の教員らによるリカレント教育が実施された。 就職促進 WG では、産業界と連携した地元企業の採用に関するニーズ調査を行うことができ、企業側の採用計画・動向を得ることができた。 共同 IR-WG では、産業界および自治体と意見交換を行い、地元就職に向けて連携強化が必要であることが相互に確認できた。 昨年度から継続して SmoothSpace や ovice を活用したオンラインの企画を実施することにより、対面では参加が難しい遠方からも可能となり、本 PF について広く知っていただく機会となった。 <p>以上のように、本 PF 事業による継続的な大学間連携活動によって、学生交流のみならず教職員の交流も増えつつあり、大学・学部・学科など分野を超えた交流の基盤が構築できつつあるという副次的効果が得られた。さらに、産業界・自治体との連携も深まり、学習支援 WG が中心となって、大学等・自治体が連携した公開講座「私大等 PF リレー講座」を次年度（令和 5 年度）に向けて企画している。これにより、本 PF によって各大学等が協力・連携しながら強み・魅力を発信することに期待ができる。</p> <p>令和元年度に発足した本 PF も、次年度で第 1 期の最終年度となる。これまでの 4 年間で、「学都金沢のブランドの確立」のためには、本 PF では一律に足並みを揃えるのではなく、参加大学のそれぞれの独自性や特徴を尊重しつつ、相互に価値ある連携をしていく大切さを認識することができた。次年度はこれまでの歩みの自己点検と令和 6 年度以降の連携体制について検討し、各大学等の意向を確認しつつ、本 PF の今後の活動を展開していきたい。</p> |
| 評価に関する備考（考慮すべき事項） | |
| | |

| ■達成目標・活動指標等 (2022. 4. 1～2023. 5. 1) | | | | | |
|--|---|--|---|--|-------|
| 課題 | 達成目標 | 課題を解決する取組概要 | 活動指標 | 実績 | 評価・備考 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 18歳人口減少による入学定員の確保 ● 多分野集結の学園都市「学都金沢」の優位性の活用 ● 大学コンソーシアム石川の中の私大の多様性・独自性の発揮 ● 特定地域の活性化 ● 専門性を活かした地域課題の解決への貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定員充足率 1.00 ・ 各大学の資源の共有化ならびに集中による「国際教養課程」の設立準備および試行 ・ 産学官金民一体となった推進(石川中央都市圏ビジョンの達成) ・ 石川中央都市圏の「住みやすさ」ランキングの向上 | (取組1) 教育の質向上に向けた各大学等の資源の共有化ならびに集中に関する事 | (取組1の活動指標) <ul style="list-style-type: none"> ・ 在学生の定員充足率 ・ 年間除籍・退学者数 | (取組1の活動実績) 年間除籍・退学者数は昨年度より減少し目標に達したが、在学生の定員充足率は 0.94 と目標値の 1 に達することができなかった。 【共同 PBL 運用】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度実施した共同 PBL の試行授業は実施できなかったが、共同 PBL のファシリテータ養成講座を実施した。今後、単位化に向けて調整・協議を行う。 ・ 自治体・産業界の課題をテーマとした共同 PBL イベントを高校生・大学生を対象に実施した。 【単位互換運用】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き金城短大と金沢工大で単位認定協定(2021年7月)を締結し、昨年度は対面授業のみであった科目が、一部科目で遠隔通信システムを活用したハイフレックス授業にて単位互換を実施した。 | B |
| | | (取組2) 類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関する事 | (取組2の活動指標) <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業と大学等の受託、共同、助成契約数 | (取組2の活動実績) 受託、共同研究契約数は目標の 88 件を超え、94 件であった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体・産業界との連携が、具体的や計画や活動設定並びに目標及び課題に対する分析等が不十分であったため、実施できなかった。 | C |
| | | (取組3) 「学都金沢」ブランドを発信し、石川県内への進学促進に関する事 | (取組3の活動指標) <ul style="list-style-type: none"> ・ 受験者数 ・ 県内・県外の入学割合 ・ 入学定員充足率 | (取組3の活動実績) 受験者数は約 5,000 人不足、県内外の入学者の割合は県内: 県外 = 51:49、入学定員充足率は 0.91 と目標に達することができなかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドブックの作成、高大連携セミナー、出張オープンキャンパス、合同進学説明会(オンライン)を実施した。 ・ 本 PF のシンポジウムで各大学等の紹介(広報活動)を実施した。 ・ 入学者に関するデータ分析を行い共有した。 ・ 県外出身者学生アンケートは実施できていない。 | B |

| | | | | |
|--|--|---|---|---|
| | (取組4) 企業・地域住民の主体的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に関する事 | (取組4の活動指標) ・小中高校生向け公開講座 ・社会人科目等履修生登録者数および公開講座受講人数 | (取組4の活動実績) 科目等履修生数 78 名、公開講座受講者数 3,286 人であった。 ・「AI 時代に求められる組織マネジメント-健康経営とウェルビーイングの実現にむけて-」をメインテーマとした社会人向けのリカレントプログラムを3講座実施した。 ・小中高向けの共同講座開講を実施することができなかった。引き続き、どのような支援が行えるかを検討する。 ・次年度に向けて、私大等 PF の共同公開講座を計画している。 | B |
| | (取組5) 地元企業の人材確保に関する事 | (活動5の活動指標) ・地元就職率 | (取組5の活動実績) 地元就職率は目標の45%には届かず、42%であった。 ・各大学等および産業界を対象とした地元就職に関するニーズ調査を実施できた。 ・学生に対する就職アンケート調査は実施できなかった。 | B |
| | (取組6) リスクマネジメントに関する事 | (活動6の活動指標) ・域内のリスク対応項目数 | (取組6の活動実績) 目標とする30個には届かず、25個であった。 ・コロナ禍と年度途中での担当者の交代により、計画していた活動が実施できなかった。 ・次年度に向けて、トリアージ訓練の模擬患者役を私大等 PF に協力依頼を検討している。 | C |
| | (取組7) 共同FD/S Dに関する事 | (活動7の活動指標) ・年間開催回数 | (取組7の活動実績) 目標の4回は実施することができなかった。 ・オンラインやハイフレックスによるFDおよびSD研修を7月・8月・3月に3回実施した。 | B |
| | (取組8) 共同IRに関する事 | (活動8の活動指標) ・共同IRによるファクトブックの年間発行回数 | (取組8の活動実績) 各大学の情報を収集し、9月にファクトブック(データ集)を発行することができた。 ・各大学等の基本情報(在籍者数・出身・除籍退学・受験者数・就職状況・産学連携・公開講座等)に加え、年間スケジュール・授業時間割・オープンキャンパス日程・教員免許・各種資格も集約し、データ集として発行した。 ・大学×自治体・産業界との連携実績データを共有した。 ・教学データについては、今後の私大間の単位互換の推進につながる参考データを共有した。 | B |

■参加大学等一覧

| 大学等名 | 住所 | 担当部署 |
|----------------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 金沢医科大学 | 〒920-0265 石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地 | 学事部 076-286-2211 |
| 金沢学院大学 | 〒920-1392 石川県金沢市末町10 | 企画部 076-229-8892 |
| 金沢学院短期大学 | 〒920-1392 石川県金沢市末町10 | 企画部 076-229-8892 |
| 金沢工業大学 (2021・2022年度 幹事校) | 〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1 | 共創教育推進室 076-294-6743 |
| かなざわ食マネジメント 専門職大学(2021年10月加入) | 〒924-0011 石川県白山市横江町8街区1 | 事務局 076-275-5933 |
| 金沢星稜大学 | 〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10番地1 | 事務局 076-253-3924 |
| 金沢星稜大学女子短期大学部 | 〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10番地1 | 事務局 076-253-3924 |
| 金城大学 | 〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 | 総務企画部 076-276-4400 |
| 金城大学短期大学部 | 〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 | 総務企画部 076-276-4400 |
| 国際高等専門学校 | 〒921-8601 石川県金沢市久安2-270 | 事務局 076-248-1080 |
| 北陸学院大学 | 〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地 | 総合政策課 076-280-3858 |
| 北陸学院大学短期大学部 | 〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地 | 総合政策課 076-280-3858 |
| 北陸大学 | 〒920-1154 石川県金沢市太陽が丘1-1 | 社会連携研究推進部 076-229-1161 |

■協力自治体

| 自治体名 | 住所 | 担当部署 |
|------|-----------------------------------|-------------|
| 金沢市 | 〒920-0962 石川県金沢市広坂1-1-1 | 都市政策局地域力再生課 |
| 白山市 | 〒924-8688 石川県白山市倉光二丁目1番地 | 企画振興部企画課 |
| 野々市市 | 〒921-8510 石川県野々市市三納1丁目1番地 | 総務部企画財政課 |
| 内灘町 | 〒920-0292 石川県河北郡内灘町字 大学1丁目2番地1 | 都市整備部企画課 |

■協力産業界

| 団体・企業名等 | 住所 | 会員数 |
|-------------------|-------------------------------|--------------------------------------|
| 金沢商工会議所 | 〒920-0918 石川県金沢市尾山町9番13号 | 5,844社(2023.5.1現在) |
| 白山商工会議所 | 〒924-0871 石川県白山市西新町159-2 | 1,644社(2023.4.30現在) |
| 野々市市商工会 | 〒921-8821 石川県野々市市白山町8-16 | 947社(2023.5.1現在) |
| 一般財団法人北陸産業活性化センター | 〒920-0981 石川県金沢市片町二丁目2番15号 | 51社(2023.5.2現在) (北陸産業活性化センターHPより) |